

大会宣言

未来を担う青少年の健やかな成長は、私たち八百津町民の大きな願いである。私たちは、青少年が、社会の一員としての使命と役割を自覚し、人生に夢や目標を持って心身ともに健やかに成長することを期待している。そのために、本日の大会を契機として、地域の大人と青少年がふれあいを深め、青少年を温かく見守り育むことができるように「あいさつ」「声かけ」運動を積極的に推進することを宣言する。

平成29年6月11日

八百津町青少年育成町民会議

少年の主張

最優秀賞

八百津東部中学校3年 柘植 由紀恵

「地域の絆を深めるために」

優秀賞

八百津中学校3年 羽賀 未越子

「メディアとの関わり方」

八百津東部中学校3年 大脇 鈴奈

「夢に向かって」

八百津中学校3年 坂元 頼夢

「ありがとう」

八百津中学校3年 青山 友大

「町を元気に、人を笑顔に」

八百津中学校3年 安藤 悟

「人がそばにいといるということ」

高校生の部

八百津高校2年 佐藤 沙羅

「心を通わせる」

八百津高校3年 赤星 未来音

「夢への架け橋」

「地域の絆を深めるために」

八百津東部中学校 柘植 由紀恵

最近、こんなニュースをよく聞きます。「親が子どもをたたきつけ障害を負わせた」とか、「子どもが介護疲れから親を殺してしまった」とか。私はこのような家族内でのトラブルによる話を聞くとき悲しくなります。

なぜこのような出来事が起こってしまうのでしょうか。

私は地域の結びつきが強ければこのような事件は防ぐことができると思います。

私が住んでいる潮南は、田舎で自然に囲まれています。近くに住んでいる人の名前や家族関係を知っているのは当たり前です。自分の家であつた食材を周りの人におすそ分けしに行ったり、道で出会えばちょっとした会話をして過ごしたりすることが普通です。しかし、都会だったら隣に住んでいる人の名前や家族関係などを知らないということも少なくないでしょう。道ですれ違つても軽く会釈をするだけで挨拶すらしなこともあるかもしれません。そんな関係では、身近な人に変化があつても気づくことができません。その人と少しでも関わりがあれば、小さな変化に気づき、助かる命があるかもしれない、地域の絆を強くすることは、とても大切なことです。

私は、都会の人も、また潮南の人も地域の絆を深めるための工夫を提案します。ゴミ拾いの活動や避難訓練など地域の人とふれあう機会を増やすことで自分の周りの人について知り、変化



に気づくことにつながるからです。

地域の結びつきを深めることの良さはたくさんあります。例えば災害が起こったときの行動です。少し前にテレビである地区で大きな災害が起こったときの行動について紹介されていました。その地区では、何個かグループを作り、そのグループのリーダーを一人決めます。そして、その人が全員の安全を確認したり、電話で避難を呼びかけたりするそうです。リーダーはもちろんそれ以外の人も自分の地区にいる人を把握している人が多かったのです。たくさん声を掛け合つて、地域住民すべて避難することができていました。

結びつきが強いと思う私の地域でも足りないと思うことがあります。高齢者の方が多いのですが、話しかけようにも共通の話題がなくてどう関わっていいのか戸惑つてしまい、高い壁を感じます。

では、私たち中学生に何ができるのでしょうか。私の通う東部中学校では、伝統の一つとして挨拶を大切にしています。挨拶は簡単に人と人をつなぐことができます。まずは、出会つた人に笑顔で挨拶をすることを大切にしたいです。

次に地域行事に積極的に参加するということです。実際にお祭りのボランティアに行つたり、防災訓練に参加したりすると、「合唱すこいね。」「毎日朝早いね。」と声をかけてもらいます。そういった会話が壁を低くしていくんだなと感じました。中学生にも地域を活性化させることができるのです。

家族の中でトラブルがあつた人などは、一番頼れるはずの家族に頼ることができないと思います。そこで次に頼ることのできる環境の一つが地域です。みなさんも挨拶など、ちょっとしたことからよいので、よりよい地域づくりのために行動してみませんか。